第４学年　道徳学習指導案

１　主題名　信頼のきずな

２　資料名　「絵はがきと切手」（中学年2－(3)　友情／出典　文渓堂）

３　指導観

○　本主題は、友達とお互いに信頼し、忠告し合って本当の友情を深めることの大切さに気づかせるとともに、自分と相手にとってより気持ちのいい行為を選択する力を育成することをねらいとする。本当の友情とは、仲良しから発展した、お互いの長所を認め合い、間違いを指摘されれば直そうと努力できることである。信頼関係が土台にあれば、間違いを指摘されても腹は立たない。それによってそれぞれが人間性を高めていくことができる。

本資料は、転校していった仲良しの正子からもらった絵はがきが、定形外のために料金不足だったことを、ひろ子が正子に伝えるかどうかを葛藤するが、最後には 120 円切手を貼らなければいけないことを知らせる決心をするという話である。本資料は、主人公のひろ子が、ちゃんと知らせるという兄の考えと、知らせずにお礼だけにするという母の考えの間で葛藤する話であり、２つの行為にも価値が含まれ、どちらの価値を大切にすることが本当の友情なのかを考えさせる上で効果的である。また、きっと分かってくれると信頼して料金不足のことを知らせる手紙を書くという模擬体験をすることもできる。よって、本資料はねらいを達成する上で効果的と考えられる。

○　本学級の子どもたちは、４月の学級編成後、もとの友達に加えて新しく気の合った友達グループをつくって行動するようになっている。生活班や当番・係の活動では、男女仲良く話し合ったり協力し合ったりすることもでき、休み時間にはみんなで遊ぶ姿も見られる。一方で、友達のことを思っていても、欠点であるようなことを自ら相手にはっきり伝えることができないという子どもは多く、相手に言わずに担任に判断を求めることもある。また、伝え方が強くきつい調子になってしまい、相手が気分を害したりけんかになったりする場面も見られる。

このような子どもたちに、言いにくいことでもきちんと伝えることが、相手のためになり、さらに本当の友情に近づくということに気づかせるとともに、相手を信頼し、その伝え方についての技能を身につけさせようとする本主題はとても意義深い。

○　本主題の指導にあたっては、本当の友情には、一緒に遊んだり困ったときに助けたりなぐさめたりするだけではなく、間違っていることをきちんと伝えることも大切であることに気づき、そして、自分と相手にとってより気持ちのいい行為を選択する上で活用することができる子どもを育てたい。そのためには、導入段階において、本当の友情とは何かを考える意欲づけのために、心のノート４２ページを資料として用いる。展開前段においては、資料を通して主人公の気持ちを推し量り、相手に知らせること、知らせないことの両方の価値を把握した上で、自分の気持ちを表出させるために心のものさしを用いて表す活動を位置づける。また、自分と他者という２つの視点から両者にとって気持ちのよい行為を選択するために、実際に料金不足のことを伝える手紙を書くという模擬体験を仕組む。そして展開後段では、価値を実現しようとする自分を見つけるために、自分の生活をふりかえる活動を取り入れる。本主題の指導にあたっては、複数時間扱い（2 時間扱い）としていく。

4　本主題の目標

○　転校していった仲良しの正子からもらった絵はがきが、定形外のために料金不足だったことを、ちゃんと知らせるという兄の考えと、知らせずにお礼だけにするという母の考えの間で葛藤する主人公ひろ子の状況を分かる。

○　本当の友情には、一緒に遊んだり困ったときに助けたりなぐさめたりするだけではなく、間違っていることをきちんと伝えることも大切であることに気づいている。

○　言いにくいことでも、相手を信頼し、きちんと伝えることが、相手のためになることに気づいている。

5　準備

子ども：心のノート、心のものさし、筆記具

教　師：資料、絵はがき、場面絵、道徳ノート、投函用ポスト

6　展開（全２時間、本時は２／２時間）

分	子どもの学習活動	教師の支援活動	目標の達成度を見取る評価規準
	1　心のノートを参考に、本当の友達とは何か、発表する。	※友達のよさについてたずね、どんな時に友達といえるか体験を話し合う。	○一緒に遊ぶ・しゃべるの他、「ケンカする・学び合う・競う・助ける・支える」などの言葉を発している。
10	めあて お互いに友達と言えるには、どんな心が大切か考えよう。		
15	2　資料を読んで、主人公の心情について話し合う。 （1）主人公が置かれている状況について知る。	※ひろ子が置かれている状況を、短冊を用いて的確に把握させる。	○資料を読んで、自分の考えをつぶやいり、疑問をもったりしている。
20	（2）伝えようかと葛藤しているときの心情を考える。	※心のものさしをつかい、クリップの位置を動かすことで、自分の体験をもとに、ひろ子の心情を推し量らせる。	○心のものさしを操作し、伝えるか伝えないかで揺れている主人公に共感し、その気持ちを表現している。
35	（3）心をすっきりさせて、返事を書いて伝えようと決めた時の主人公の心情について話し合う。	※伝えない方がいいと迷っていたときの心情を確かめる。	○友達だから伝える、きっと分かってくれるという相手の気持ちを考えた発言している。
45	3　次時について伝える。	※どんな風に伝えたら相手も自分も気持ちよくなるか。	

0	1　前時を想起して、めあてを確かめる。	※前時のあしあとから迷いの場面を想起させる。	○前時の学習内容をふりかえる言葉を発している。
5	めあて 友達を思う気持ちを考えて、正子へ返事を書いてみよう。		
10	2　模擬体験をする。 （1）　ひろ子になって、正子への返事を書く。	※書こうと決めたときの気持ちをふりかえる。 ※記名せず主人公になって正子への手紙を書き、ポストに投函させる。 ※ただ書くのではなく、相手も自分も気持ちよく感じるためにはどのように書けばいいか考えさせる。	○相手も自分も気持ちよく感じるために言葉を選んでいる。
25	（2）　受け取って読んでみた感想をいう。	※手紙を配り、手紙をもらったら、どんな気持ちになったかを発表する。 ※友達にとって言われて嫌なことでも、あえて言ったことでより望ましい友達関係があることに気づく。	○友達の書いた文のいいところを見つけて理由を述べたり、よりよく伝えるにはどうしたらいいかを発言したりしている。 ○「相手も自分も気持ちよく感じられる伝え方がある」ということに気づき、相手を信じて、伝えることのよさについて発言している。
35	3　自分の経験について考え、話し合う。	※今まで友達にはっきり言ってあげてよかったと思ったこと、言われてよかったと思ったことを話し合う。	○自分の経験を話したり、発表した人の話に共感したりしている。
43	4　教師の説話を聞く。	※友達だからできることについて話す。	